

社会の一員として

『そのだ』の地域連携 vol.2

目次…	1
学長あいさつ…	2
震災と復興に関するシンポジウム開催…	3
近松研究所の地域文化振興…	4
総合生涯学習センターの事業…	5
杭瀬タウンガイド…	6
わらべうた遊びの普及活動…	7
学生プロジェクトプラン・コンペ…	8
兵庫県民局との地域連携事業…	8
猪名寺地区での食育支援…	9
「万葉の里・猪名寺」再生事業…	9
Web版『図説 尼崎の歴史』制作…	10
図書館の地域開放…	10
小学校英語セミナー／ハロウィーン活動…	11
スクールボランティア活動…	12
キッズフェスティバル in そのだ…	13
栄養スタンプラリー&餅作りの開催…	14
はじめてであう！わくわくサイエンス…	15
そのだの高大連携事業…	16
養護実践研究会 Smiles の活動…	17
健康・スポーツを発信します！…	18
地域のパートナー「まちの保健室」…	19
「環境学生会議」での発表…	20
兵庫県赤十字血液センターとの連携…	20
武庫川河川敷の整備事業への協力…	21
園田学園テニスカレッジ…	22
ソフトボール教室…	22
つかぐちグルメガイド…	23
大学等協同研究支援事業（尼崎卸売市場）…	24
尼イモで尼崎のスイーツはいかが…	24
創作和菓子「橘の玉依姫」を考案！…	25
南塚口センターセブン・チラシ制作…	26
丹波商工会と「料理とスイーツ」で連携…	26
地域に支えられる本学の国際交流…	27
尼崎市国際交流協会との協力事業…	28
地域連携に参加した学生の声…	29
(追録) 震災における本学の支援…	30

日本の社会においてハード面の大学開放は進んできましたが、今後はよりソフト面の協働、共同が求められることとなります。

本学は、近畿圏、兵庫県、阪神間、尼崎にしっかりと軸足を置き、「捨我精進」の建学の精神のもと生涯学習、地域文化、健康福祉の向上及び地域課題の解決支援に貢献するよう努めています。

社会に開かれた大学として地域と一体となる植樹や、公開講座の開催、情報教育の推進、地元産業との共同研究など、女子大学としてはいち早く大学の開放を行ってまいりました。

地域社会との緊密な連携を推進することにより、人財の育成、科学の発展、文化、産業の活性化に貢献するよう行動してまいります。さらに、ここで培ったノウハウを、オセアニア・アジア・太平洋地域を中心とした国々との連携に活用し、国際社会に貢献できるように努力していきたいと考えています。

「他者と支えあう人間の育成」という大学の理念の実現をめざし、個性豊かな地域の大学としてその役割を果たすため、各種の地域連携事業に取り組んでおります。この冊子はその内容を紹介するもので、ご高覧いただき、本学へのご理解とともに、今後のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

平成 24 年 3 月

園田学園女子大学
園田学園女子大学短期大学部
学長 富 永 嘉 男

震災と復興に関するシンポジウム開催

本学：教育研究企画部

2011年12月17日、本学にてシンポジウム『女性の目から見た復興』が開催されました。これは本学も加盟する大学コンソーシアムひょうご神戸の呼びかけで、この年3月11日に起きた東日本大震災の復興を様々な側面から支援するためのシリーズ講演会のひとつとして企画されました。本学ならではの視点として“女性”と“文化”の面から、パネラーはもちろん学生の経験も交えたとても有意義なトークが展開されました。同時に岩手三陸の震災前の美しい風景を収めた写真展も開催しました。

東日本大震災でのボランティア活動報告

シンポジウムでは、東日本大震災の被災地でボランティア活動をおこなった学生からの報告がありました。銀河ネットという岩手県立大学の学生有志が運営するボランティアに参加し、仮設住宅内にある談話室運営などの手伝いをしてきました。そこで感じたこと、今後も継続して支援していくことなどを学生の言葉で伝えました。



ニュージーランド地震にみる日本とNZの違い

2011年2月22日に起きたNZクライストチャーチ大地震は本学のNZ研修の期間中でもありました。現地で地震を体験した学生が、その時の日本人とNZ人との対応の違い、緊急時の国民性などを自身の経験を元に語りました。

今後も継続的な支援を呼びかけ

女性ならではの視点で支援が必要な現状、東北と一括りではなく県民性・地域性も知った上での支援、学生ができること、我々大人ができることなどを、それぞれの立場・視点で事例を交えながら示唆していただきました。今回のキーワードは“記憶”。人やモノに対する記憶・思い出は、五感に訴えながら語り伝える必要があるとまとめられていました。今後もこのようなきっかけづくりを通じて様々な支援、連携を呼びかけていきます。



近松研究所の地域文化振興

連携先：尼崎市・福井県鯖江市・近松記念館等
本学：近松研究所

近松研究所は、日本の代表的劇作家である近松門左衛門を顕彰する地域・団体等と連携した地域文化振興を業務の一に掲げ、講座開催や展示等の他、様々な近松顕彰事業に積極的に協力・支援・指導をしています。「大近松祭」（毎年10月最終日曜に開催）実施への協力、近松記念館資料展示室の展示およびその解説、各種講座や高等学校の特別授業での講師派遣等の他、演劇芸能関係調査への協力、演劇公演・TV番組制作等への協力等、近松を切り口に多彩な連携に取り組んでいます。

講座の開催等

毎年度1・2学期に各々10回ずつの「近松講座」（研究所研究員が担当）を開催する他、依頼により各種団体主催近松顕彰講座に出講し、近松や芸能演劇により親しんでいただけるように努めています。

近松記念館資料展示室の監修等

研究所は(財)近松記念館資料展示室展示品の陳列および展示品解説を担当していますが、その他記念館企画展示も継続して担当しています。さらに、展示解説ボランティアの養成にも協力し、来館者の理解の一助となるように努めています。

また、福井県鯖江市の歴史資料館内に開設されている「近松の部屋」の展示品等に関して協力し、近松への理解を深めていただくように努めています。

上記二館の他にも、近松や芸能演劇関係の展示実施を希望する各所への協力・助言・支援を積極的に行っています。

制作等への協力その他

プロアマを問わず地域・団体等の主催する演劇やTV番組の制作等に際し、その求めに応じて助言・指導・支援し、資料の貸与を実施しています。

また閲覧室を一般公開（平日）し、皆様の利用に供しています。



総合生涯学習センターの事業

本学：総合生涯学習センター

本学は、地域に開かれた大学を目指し、社会貢献の一環として30年前から公開講座を開始し生涯学習に取り組んできました。生涯にわたっての学習機会が求められる今日、本学は先駆的大学との評価を得て、さらなる飛躍に取り組んでいます。本学は女子大ですが、公開講座やシニア専修コース、テニスカレッジなど、多様な講座に男女を問わず参加できます。中高年齢層、現役社会人、ヤングファミリー層や幼児など、さまざまな年齢層の方々为本学で学ぶ姿が見受けられます。

シニア専修コースの科目のひとつ、「日本史学Ⅲ」では平成24年度より尼崎市立地域研究史料館、尼崎市立文化財収蔵庫との提携で「尼崎の歴史を学ぶ」科目を提供し、地域連携の新たな展開に取り組みます。

公開講座

いち早く昭和54年に開設した公開講座は、現在では年間約140講座、受講者数1800名の規模となりました。文学、歴史を中心とした総合教養、芸術、創造、健康・スポーツ、英・仏・中・韓国語、資格等キャリアアップ講座を、年間2回（前期・後期）に分けて募集・実施しています。都会とは思えない豊かな緑に囲まれたキャンパス、学生食堂や図書館の利用も大きな魅力です。



移動講座、講師派遣

地方都市のように近隣に大学がない市町村では、本学主催の移動公開講座を行っています。また、地域行政と協力・連携した講座の企画や、本学からの講師派遣も行っており、地元の方々から喜ばれています。



シニア専修コース

公開講座よりもさらに学びを深めたいとのニーズに応え、平成14年度にシニア専修コースを発足させました。文学歴史学科、国際文化学科、情報学科があります。いずれも3年制の課程で、受講生は大学の講義と同様、毎週決まった曜日の時間帯に講義を受け、1年間同一科目を継続して学びます。さらに、卒業後も希望すれば「研究生」として引き続き学ぶことができます。現在は300余名が在籍。受講だけでなく、クラブ活動も楽しめます。



杭瀬タウンガイド

連携先：尼崎商工会議所・尼崎市立杭瀬小学校
本学：未来デザイン学部文化創造学科大江ゼミ

2010年2011年の2年間、尼崎商工会議所と連携し、タウンガイドづくりに取り組みました。2010年度は地域を知るために、商店街のイベントに参加したり、お祭りに参加させていただいたり、数多くの体験をしました。2011年には、杭瀬小学校の児童、PTAといっしょに「くいせ探検隊」を実施し、地域の資源を発見しました。これらの活動を通して、学生一人一人がテーマを持ちながら仕上げた一味ちがうユニークなタウンガイド「杭瀬なび。」を制作しました。

杭瀬を体感する。

地域を知るには、「あるく・みる・きく」フィールドワークが大切です。この取り組みでは、杭瀬の皆さんにあたたかく迎えていただきました。地域とともに活動できる工夫がされた小学校の見学、商店街の夏のイベントに参加、杭瀬熊野神社の秋季例祭では、巫女さんの体験や女神輿を担がせていただき、杭瀬のエネルギーを感じることができました。



くいせ探検隊一街を知るー

杭瀬小学校の児童といっしょに街の探検隊を実施しました。子どもたちと歩くと、何気ない景色や看板、お店の商品など、次から次へとオモシロイものが見つかりました。街の宝物を子どもたちに教えてもらい、一枚の地図にまとめていく作業はとても興味深いものでした。



つたえる・ふれあう・くつろぐ

杭瀬の街の個性を3つのキーワードでまとめました。「つたえる」では、戦前・戦後、商店街の発展とともにあった杭瀬の歩み、伝統的な行事が残っているお地蔵さんを取り上げました。「ふれあう」は、商店街のなかでの子育て支援と高齢者施設取材し、コミュニティの課題を知りました。「くつろぐ」では、喫茶店と銭湯をテーマに癒しと寛ぎの空間の特色を探りました。人情味があふれる街、もっと知りたくなる街、杭瀬の見どころが満載されています。



わらべうた遊びの普及活動

連携先：国際ソロプチミスト尼崎、児童養護施設
本 学：わらべうた研究会シグマソサエティクラブ

わらべうた研究会シグマソサエティクラブは、わらべうた遊びを通して地域に貢献するとともに、学生の学びの場を地域に広げることがめざして結成されました。尼崎市内の小学生や親子を対象としたわらべうた遊びの普及活動、児童養護施設において歌や遊び、人形劇などを披露する活動を行っています。

活動内容

わらべうた研究会シグマソサエティクラブは、平成15年に人間健康学部幼児教育学科（現・児童教育学科）の学生有志が結成したわらべうた研究会を母体とし、わらべうたを通してボランティア活動を行うことを目的として、平成16年度より活動を開始しました。



活動内容としては、夏休みに尼崎市内のいくつかの小学校へ出向き、一緒にわらべうた遊びを楽しみ普及する活動を行っています。また、学園祭の折には、「親子で遊ぶわらべうた」をテーマとして、お母さんお父さんと子どもと一緒に遊べるわらべうたを紹介し実践しています。さらに学園祭では、多くの人が外部からも来られることを考えて、日本ライトハウスへの寄付を行うための募金活動をフリーマーケットという形で行っています。



そして、毎年12月には、児童養護施設で行われるクリスマス会に参加し、歌や遊び・人形劇などを披露しています。



活動開始から7年が経ち、いろいろなところから、わらべうた遊びを披露・指導してほしいと依頼が来るようになりました。今後も地域に貢献しつつ、学生たちの学びが広がればと願っています。

学生プロジェクトプラン・コンペ

連携先：大学コンソーシアムひょうご神戸
本 学：未来デザイン学部文化創造学科



僕らで創ろう！30年後も住みたい『ひょうご』

このコンペは、30年後に社会の一翼をになう世代になっている大学生が、何をどう考えれば30年後もずっと暮らしたいと思える「ひょうご」になるのかを提案する企画に応募したものです。一次審査・二次審査を経て、優秀賞を受賞しました。



0歳～100歳が共に生きる「のびのびタウン」

0歳から何歳まででも、共に、安心して暮らすことのできる地域をつくるために、小学校を中心として、さまざまな世代の住民が交流できる拠点をつくるプランです。会員制で有料、経営主体は民間事業者を考えました。女子大生らしい幅広い視点だと評価していただきました。

兵庫県民局との地域連携事業

連携先：兵庫県阪神南・阪神北県民局
本 学：教育研究企画部



キャンパスクリエイター支援事業への協力

兵庫県阪神南・北県民局による、大学と地域とのつながりを促進する事業「キャンパスクリエイター支援事業」へ本学も学生を派遣して協力しています。ここでは各大学から派遣された学生達を中心に、地域とネットワークを築きながら取り組みを進めています。



キャンイベント阪神つながり交流祭開催！

これら活動の集大成であるイベントが本学で開催されました（2011年2月20日）。当日は総合健康学科の学生が「食生活見直し隊」の活動について発表し、人間看護学科の教員・学生が「まちの保健室」を特別に開室して日頃の取り組みを披露しました。

猪名寺地区での食育支援

連携先：猪名寺地区自治会（長寿会・婦人会）
本学：人間健康学部食物栄養学科 松葉ゼミ



ゼミ学生が1年目の地区診断と食事調査に参画

猪名寺地区の活性化並びに地区会館の実習室活用をテーマに尼崎市と自治会の代表者の方と協議を行い、その時の自治会からの要望は次世代の健康な高齢者づくりであり、対策の1年目として食事調査をゼミ学生が実施しました。その結果、男性は60歳代より70歳代に、女性は70歳代より60歳代に食事に気をつけている方の割合が高く、過食傾向も少ない特徴がみられました。



2年目は、レッツ ウォーキングエクササイズ

平成23年12月の2日間、園田北小学校にて軽運動と脊椎ストレッチウォーキングと骨量測定を行いました。寒い中、60人程の参加があり、軽く汗ばむ程度の運動を実践していただきました。今後は、活動計をつけていただき自己モニタリングを行う予定です。仲間と一緒に継続したりすることにより持久性の運動効果も上がってくることを期待しています。

「万葉の里・猪名寺」再生事業

連携先：猪名寺自治会
本学：未来デザイン学部文化創造学科大江ゼミ、人間健康学部総合健康学科、食物栄養学科有志



猪名寺ぶらり散策

猪名寺は、万葉集にうたわれた「佐璞丘」や猪名寺廃寺という史跡があるものの、地域の方々には十分認知されていませんでした。そこで、自治会が主体となり、「佐璞丘」を整備し、史跡を巡るイベントを実施しました。学生は自治会の会議から参加し、第3回「ぶらり散策」では、ツアーガイドも務めました。



地元企業との共存一益踊りー

猪名寺の盆踊りは、平成22年から大きく様変わりしました。参加者が年々減少の傾向にありましたが、地元の工場を利用し、自治会と社員が一体となることによって、盛大に開催されるようになりました。学生は、地名の由来である猪名寺廃寺をモチーフにしたうちわを製作しました。

Web版『図説 尼崎の歴史』制作

連携先：尼崎市立地域研究史料館
本学：生活文化学科情報デザインコース 垣東ゼミ



学生が本格的に取り組むWebコンテンツ開発

垣東ゼミでは、尼崎市制90周年記念刊行物『図説 尼崎の歴史』を学生が中心となってWeb化するプロジェクトに取り組みました。19年度から取り組み、23年度に完成・公開しています。このプロジェクトにより、学生は授業で学んだホームページ作成技術の実践力が向上し、出来上がったコンテンツは広く市民に活用されています。ゼミ生は「画像処理や文章の流し込みなど地道な作業で大変でしたが、自分の担当ページが出来上がると嬉しかったです。完成したホームページを児童・生徒・学生や社会人などみなさんに使っていただきたいですね！」と感想を述べていました。

図書館の地域開放

連携先：尼崎市・伊丹市・西宮市
本学：図書館



図書館の地域開放

図書館では、平成22年4月から尼崎市、同23年4月から伊丹市・西宮市にそれぞれ在住・在勤の20歳以上の男女および18歳以上の女子高校生を対象に、利用を認めています。

申請の際に、身分証（有資格者であることを証明するもの、運転免許証等）、図書館利用証発行手数料1,000円を添えて、必要事項を記入した申請書を図書館3階カウンターにご提出ください（申請書はカウンターにあります）。有効期限は発行日時にかかわらずその年度末（3月31日）ですが、1年ごとの更新ができます（更新手数料500円が必要）。

小学校英語セミナー / ハロウィーン活動

連携先：尼崎市教育委員会（後援）、尼崎市こども青少年局児童課
本 学：児童教育学科 英語、国語に強い小学校教員コース

児童教育学科では、「英語、国語に強い小学校教員コース」新設とともに、英語・国語教育に更に力を入れています。コースの特色の一つである小学校英語については、地域連携事業の一環として、小学校の先生方や児童英語教育に関心のある方々を対象に、「小学校英語セミナー」(2010, 2011年度は無料)を開催しており、尼崎市のみならず近隣の市町からご参加いただいています。また2011年秋には、学生が近隣の小学校の子どもクラブに出向き、「ハロウィン活動(出前授業)」を行いました。

小学校英語セミナー

2011年度より公立小学校で外国語(英語)活動が必修化されました。児童教育学科では、小学校の先生方や児童英語教育に関心のある方々を対象に、よりよい小学校英語活動のあり方について、理論と実践指導法の両面を分かりやすくお教える「小学校英語セミナー」(尼崎市教育委員会後援)を2010年度より開催しています。参加者からは、「分かりやすかった」、「楽しかった」、「すぐにでも授業で実践できる内容でよかった」などの声をいただいています。



ハロウィーン活動(出前授業)

児童教育学科の英語、国語に強い小学校教員コースの学生が、2011年10月25日に尼崎市立塚口小学校子どもクラブでハロウィン活動を行いました。ハロウィンにちなんだ英語の歌を学生が歌うと、いつの間にか子どもたちも口ずさんでいました。ゲームでは、学生の英語での問いかけに対して、「Yes!」「No!」と答えていました。ハロウィンとはなにかを英語絵本で紹介し、その後、トリック・オア・トリーティングを行いました。「Trick or Treat!」「Happy Halloween!」と元気な声が響きました。

スクールボランティア活動

連携先：兵庫県や大阪府内の公立小学校、中学校
本 学：教職を目指す学生(教職支援室)

近年、教職を目指す学生が住居や大学の近くの公立小学校や中学校で、スクールボランティアを行う機会が増えています。それは学生にとって教育現場の実際を肌で感じる良い機会となり、教職へのモチベーションをいっそう高めています。定期的継続的に活動するスクールボランティア(スクールサポーターなど)は、受け入れる学校も学生への指導に積極的で、短期集中的な教育実習では得られないものがあります。それは子どもの成長を見ながら継続的に関わるため、一人ひとりの子どもに合わせた先生方の教科指導や生徒指導などをつぶさに見られるので、学生自身も活動を積み重ねながら指導法や理念を身に付けることができます。未来の教員と学校が教職のコラボレーションをこのような形で行うことは、児童生徒にとっても良い影響を与えていると考えています。

スクールボランティアの活動

本学では、教職を目指す学生たちにスクールボランティア活動を奨励しています。平成18年度より6年間で、約200名の学生がこの活動に参加しました。スクールボランティアは教員の補佐として、さまざまな活動に取り組んでいます。授業の補助、保健室の補佐、特別支援教育の補助、クラブ活動の補助、校外活動の補助など、活動は実に多様です。左の写真は授業中の補助場面です。児童一人ひとりに優しく声をかけ、学習を支援しているところです。このような活動は学生にとって、教育現場の実態を肌で実感するとともに、大学で身につけた理論や方法を活用する良い機会となり、教職への理念や技術を高めます。



放課後学習の支援

左の写真は放課後学習での場面です。スクールボランティアの学生が児童の質問に丁寧に答えているところです。このような放課後学習のあと、スクールボランティアの学生と児童が教室だけでなくグラウンドや体育館で遊ぶことが多いようです。このようにして、学生と児童の間には信頼関係が深まっていきます。



キッズフェスティバル in そのだ

連携先：コンソーシアムひょうご神戸（平成 21・22 年度）
本 学：園田学園女子大学全学部

平成21年度10月より大学コンソーシアムひょうご神戸企画の「キッズオープンキャンパス」を共同開催しました。大学を地域の子どもたちに開放し、スポーツ、食育、芸術、文化等を通して、子どもの健全育成に貢献するとともに本学学生にとっては様々な教育を実体験できる貴重な機会となっています。平成23年度からは本学独自の企画「キッズフェスティバルinそのだ」として地域貢献活動を継続して行っています。

活動内容

主に地域の小学生を対象にスポーツを通じて体を動かすことの楽しさを伝えることや子どもたちの体力づくりを目的とし、キッズテニス、ソフトボール、バスケットボール、剣道等の体験教室を開講しました。

平成23年度からは食育や工作の教室を新たに開講し、スポーツのみならず食育、芸術体験の場を提供しています。

この活動をきっかけに子どもたちが様々なことに興味をもち、挑戦してくれることを願っています。

子どもたちとともに学ぶ！

この活動は各運動部所属の学生や各学科のゼミ学生が中心となって行っています。参加する子どもたちが安全に楽しく学び、運動できるよう時間をかけて真剣に計画し、準備します。子どもたちとの交流を通じ、学生自身が経験値を高め、新たな発見や、視野を広げることにつながっています。また、将来教育に携わりたいと希望する学生にとっては、進路へのモチベーションを高める良い機会となり、学生自身も多くのことを学んでいます。今後も地域に貢献し、子どもたち、学生お互いにとって学びの多い活動を目指します。



栄養スタンプラリー&餅作りの開催

連携先：兵庫県立但馬ドーム、芦屋市青少年センター
本 学：人間健康学部食物栄養学科 松葉ゼミ

あらゆる世代（幼児～高齢者）の方々と栄養や食事を通しての交流イベントを芦屋市青少年センターでは2008年から、兵庫県立但馬ドームでは2011年から開催しています。ライフステージを対象とした研究をしている当ゼミの学生が自ら企画し実施する「栄養スタンプラリー&餅作り」は、食品を見て、触って、選んで、作って、温かさを感じてもらい、五感をフル活用して、色々な栄養や食品の知識を身につけてもらいます。更に親子にアンケートをとり、お互いの食べ方の認識のズレも把握してもらいます。

栄養スタンプラリーの内容

- さわって当てよう！
手触りで、箱の中の食品の名前を言い当てる。
- 太りやすいのは、どっち？
2つのよく似た食品のエネルギーの高い食品をあてる。
- はやく、できるかな？お箸で豆つかみ
3つのブースを開設して、栄養スタンプラリーにチャレンジしていただきました。

うまくできるかな？自分でこねて、餅づくり

秋の快晴な日曜日但馬ドームで餅作りを行い、大人 男性11名、女性44名、子供 男子30名、女子52名 計137名の参加がありました。

親子やおじいちゃん、おばあちゃんとお孫さんが、一緒に力を合わせて、上手にお餅を作っていました。

阪神但馬地域の親子アンケートを卒論研究に

その結果、朝食の欠食率は7.0%であり、給食のランキング調査では2つの地域間には差がなく、また、先行調査とあまり変化は見られず、好きな物はカレー、苦手なものはゴーヤ、よく食べる菓子はスナック菓子という結果でありました。今後も児童や保護者に対する働きかけを行うために積極的にイベントに関わり内容の充実を図りたいと思います。



はじめてであう！わくわくサイエンス

連携先：尼崎市・堺市

本 学：園田学園女子大学人間教育学部・教職を目指す学生

現在の小学校では、教育の文化や伝統を受け継ぐシステムの構築に苦しんでいます。特に理科などの実験・実習の面白さを若手の先生方から児童・生徒にうまく伝え続けていくことが課題です。そこで身近な理科・数学の「面白さ」を地域の中の児童に与えられれば幸いと考えています。また、親子参加型にして大人でも楽しめるプログラムです。加えて教職を目指すボランティア学生を募り、準備から授業者・参加者のサポートに従事させて、教員生活に役立つ教材の開発も目指しています。

学ぶ・知る・考える・調べる

理科や算数は、日常生活ではかかせないもので、身の回りの家電製品などすべてに使われています。オープン講座では、実験や工作などをしながら、楽しくわくわくしながら「学ぶ」、「知る」、「考える」、「調べる」おもしろさや、新しい発見を親子や友達同士で楽しんでもらえたらと思います。



年間8講座展開・作品はお土産に

小学校4年生以上の児童とその保護者の参加が基本です。講座内容は次の通りです。

【前期】

- ①光のふしぎ
- ②カメラを科学しよう
- ③くるくるルービックキューブ
- ④音と空気のふしぎ-??を伝えよう-

【後期】

- ⑤すごおーく へんな立体
- ⑥3D(立体)を科学しよう
- ⑦はな定規
- ⑧科学の力で紙風船を浮かそう



そのだの高大連携事業

連携先：①兵庫県教育委員会、各高等学校 ②京都府教育委員会

本 学：全学部学科

①園田学園女子大学では兵庫県教育委員会、あるいは兵庫県下・大阪府下の各高等学校と連携し様々な高大連携事業を展開しています。全国的に先進的な取り組みであるインターネットを利用したeラーニングによる授業、本学の教員が直接高校に出向いて授業をおこなう出前講座などを実施しています。

②京都府教育委員会・京都府立兔道高校と連携し、体験活動を通じた統計的分野の確かな学力育成に取り組んでいます。

eラーニングを活用した授業

広く地域の高校教育の活性化のため、本学の授業科目を一部開放して高大連携科目としています。本学は県内で唯一eラーニングを用いた高大連携を実現しており、23年度は5つの授業科目を提供しました。また、修了後は高等学校で単位認定されると同時に、本学へ入学した場合は所定の手続きを経て、入学前の既修得単位として認定することができます。



サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト

平成25年4月から高等学校新学習指導要領が始まります。「統計」における「数学的活動」では、社会全体の数理的な考察をするうえで、効果的なものを目指しています。そこでは、数学の有用性や面白さを見つけ、「課題学習」に取り入れることで、生徒の主体的な考察や分析する能力育成も図れるのです。小学校算数にも既に統計が組み入れられ、本学学生はこれらの教育評価と課題学習の取り組みをサポートし研究しています。このサポート事業は、科学技術振興機構(JST)と京都府教育委員会との包括協定と連動しています。京都府全体の数学教育の活性化と高校生と大学生の表現能力や情報発信能力の育成を同時に図れるように、より良い姿を目指しています。



養護実践研究会 Smiles の活動

連携先：近隣幼稚園・保育所

本学：人間健康学部総合健康学科 養護コース

養護実践研究会 Smiles は、養護教諭を目指す学生有志の集まりです。地域の幼稚園・保育所と連携し、養護教諭の専門性をいかした指導方法・技術を磨くとともに、ボランティアの活動でも地域に貢献することを目指しています。

出前保健指導



幼稚園や保育所での保健指導は、食事や睡眠・排便・手洗い・うがい・歯磨き・風邪の予防など、幼児が身に付けるべき生活習慣の指導が中心です。紙芝居や寸劇、遊戯などを取り入れ、子どもたちが楽しみながら学べるよう工夫しています。学生自身で指導案・教材を作成し、教員からも指導を受けて、練習を重ねています。

子どもたちの笑顔で元気になれます！！

幼稚園や小学校での教育支援ボランティア活動も行っていきます。活動内容は、子どもたちと一緒に遊んだり、トイレ等の援助を行うなど、先生方のお手伝いです。このような活動を通して子どもたちと触れ合うことで、子どもたちの特徴や生活の様子を知ることができ、何よりも子どもたちからたくさんの元気をもらっています。



地域への情報発信

本学のけやき祭では、平成22年度に「あなたにも救える命があります」をテーマにAED講習会を行い、平成23年度には「湿潤療法」をテーマに最近ケガの手当てで使われている湿潤療法（ラップ療法）について、紙芝居で分かりやすく説明しました。大学で学んだことを分かりやすくまとめ伝えることで、自らの学びを深めると共に、地域のみなさんの普段の生活の役に立つような情報の発信に取り組んでいます。



ペットボトルのキャップ回収ボランティア

私たちは養護教諭の専門性をいかす活動だけでなく、ボランティア活動にも力をいれています。ペットボトルのキャップは800個で1本のワクチンに変わり、世界の子どもたちへ送られます。保育所からも集めています。

健康・スポーツを発信します！

連携先：尼崎商工会議所・県立但馬ドーム

本学：スポーツ振興センター

スポーツ振興センターは健康・スポーツをキーワードに活動を行っています。地域のみなさんの健康づくり支援のために、またスポーツを通じての交流や子どもへの取組みが出来るようにさまざまなイベント等を開催しています。23年度は尼崎商工会議所と連携協定のイベント「健康づくりセミナー」・「キンボール、バーンゴルフ体験イベント」。県立但馬ドームでは13年にわたりテニス・ソフトボールクリニックを行っています。センターとしてもさらに健康やスポーツの情報発信を活発に行っています。

健康づくり支援セミナー&イベント

本学園と尼崎商工会議所との連携協定に基づき、共同主催イベントを開催しています。「尼崎に住む人、働く人、学ぶ人が楽しくスポーツに触れることのできる街へ」。23年度の第1弾として、運動不足が気になる人のための「健康づくりセミナー」、講義と手軽に出来る運動の紹介を行いました。第2弾はニュースポーツで健康づくり！「キンボール・バーンゴルフ体験イベント」実際に大学の施設を利用し、種目体験をします。少しでも市民のみなさんに健康への知識と体を動かす楽しさを伝えたいです。



県立但馬ドーム「テニス・ソフトボールクリニック」

13年間にわたり県立但馬ドームとの連携で「テニスクリニック」「ソフトボールクリニック」を開催しています。受講生はのべ3000名を超えています。但馬地域は雪深く冬の間は屋外でスポーツが出来ないため、ドーム内でテニス・ソフトボールで楽しんでもらいます。小学生から一般まで幅広く対応できるようにそれぞれ2日間に分けて対象者別のクリニックにし、毎年盛況です。



スポーツクラブ学生によるボランティア活動

本学のスポーツクラブに所属する学生では、さまざまなボランティア活動を行っています。それぞれのクラブ単位で地域のスポーツクラブ21のお手伝いや神戸マラソン等の各種競技の大会運営のボランティアにも参加しています。普段は選手として参加する大会も、運営・指導することでさまざまな経験を通じて地域に貢献できる学生を育みます。



地域のパートナー「まちの保健室」

連携先：尼崎市、医師会、地域包括支援センター、看護協会など
本学：人間健康学部人間看護学科の教員および学生

「まちの保健室」は、地域の人々の健康への感心、不安や悩みを気軽に相談できる看護提供システムです。人間看護学科では大学を拠点としながら、地域へ出向いて「まちの保健室」を開催しています。地域団体・組織と連携、協働しながら地元密着型の気軽な健康相談の場として「まちの保健室」を提供し、さらに教育環境として活用しています。住民や地域組織・団体とパートナーシップを深めることで、ヘルスプロモーションの推進と地域力の向上をめざしています。

「まちの保健室」設置の経緯と内容

看護の社会化に応え、住民の健康生活支援の場として、さらに現代の社会情勢に対応する看護職育成のために、平成18年6月より園田キャンパス「まちの保健室」を開設しました。尼崎市の地域特性を考慮し、地域組織と協働しながら住民のニーズに合わせた活動を展開しています。

活動の成果

大学を拠点とした定例の「まちの保健室」を週に1回開催し、多くの住民の方々に利用していただいています。また、地域住民や団体の依頼に応え、「出前型」として尼崎市内で広く活動しています。特に出前型は、尼崎市や尼崎市医師会、兵庫県看護協会、尼崎北ライオンズクラブ、尼崎市地域包括支援センター、地域推進委員会などと協働で展開し、マタニティセミナーから子育て相談、健康相談、介護予防教室まで、あらゆるライフサイクルの方々の健康づくりをめざしています。平成23年度は12回の出前型を開催し、地域組織や団体との連携を深めています。

今後の展望

これからもさまざまな地域組織・団体との連携・協働により、地域住民の健康生活を支援する環境づくり～健康を支援するネットワークづくり～を行い、ヘルスプロモーションの推進・地域力の向上をめざします。



「環境学生会議」での発表

連携先：大学コンソーシアムひょうご神戸
本学：総合健康学科衣笠ゼミ、文化創造学科尼崎プロジェクト

「猪名川藻川の水辺まつり」の企画・運営

水辺まつりは、猪名川・藻川の清流復元をめざし、人々が川に集い、子どもも大人も一緒に川で遊ぶことで、川と人との関わりを考えるイベントです。本学の学生・教員有志が、平成18年度より水辺まつり実行委員会に参加し、まつりの企画・運営を行っています。

ウォーキングプログラムの事例発表

大学のすぐ側を流れる庄下川の親水性向上をめざし、平成20年から「庄下川アメニティプロジェクト」を立ち上げています。水質検査や親水性向上の取り組みに加え、健康保持推進の活動を河川で行うことで、河川環境についての意識向上も狙っています。



兵庫県赤十字血液センターとの連携

連携先：塚口さんさんタウン献血ルーム
本学：インターアクトクラブ

29年目の地域ボランティア

尼崎北ロータリークラブの提唱で、昭和58年に剣道部1・2年次生からなるインターアクトクラブが設立されました。社会奉仕と国際理解を2本柱として、これまでに様々な活動をしてきましたが、特に力を注いだのが学内献血の推進です。近年では塚口さんさんタウン献血ルームと共同で、学内献血キャンペーンを展開。新入生へのPRとして、正門前でのティッシュ配りは恒例行事になっています。平成23年には学園祭に献血車を招き、80名近い学生が献血に参加しました。永年の献血活動が認められ、平成21年度に厚生労働大臣感謝状贈呈団体として表彰されました。



武庫川河川敷の整備事業への協力

連携先：人と自然の水辺づくり協議会（（社）兵庫県建設業協会）
本学：人間健康学部総合健康学科 健康・スポーツコース

国道171号の甲武橋北側の地域は武庫川を渡る旧西国街道の拠点「髭（ひげ）の渡し」と呼ばれる詩情豊かな所でしたが、阪神・淡路大震災後、河川敷はごみの不法投棄などで荒れ果てていきました。しかし、地元住民のボランティア活動により今では阪神間のコスモス畑として、訪れる人の目を楽しませてくれています。

この河川敷の活性化事業の一環として、この地に間伐材のリサイクルによるウッドチップを活用したウォーキングコース計画へのアドバイスや普及に本学が協力しています。



健康増進・資源循環型ウォーキングコース開発

約1万3000平方メートルの河川敷に、運動の初心者や高齢者が足を痛めることがないように、間伐材のリサイクルによるウッドチップ等を活用した桜並木ジョギング・ウォーキングモデルコースという健康増進の場を整備します。その開発にあたり、コース設定やプログラム作成などのアドバイスを行っています。

2011年イベントでの健康づくりを広げる活動

2011年11月実施のイベント（人と自然の水辺づくり協議会主催）「ニコフェス～キラキラ笑顔のコスモス畑～」にて、健康づくりについての実技指導を交えた講演を行いました。その内容は、ウォーキングやジョギングの基礎知識やフォームはもちろん、ダイエットや腰痛・膝痛などの予防のための運動、チューブエクササイズなどで、参加者も楽しめる内容です。



園田学園テニスカレッジ

本学：総合生涯学習センター

園田学園でテニスを楽しもう！

1979年6月から“土曜早朝コート開放”として始まったテニス教室が、地域の皆様に育てられ、「園田学園テニスカレッジ」となり、現在、約200名の受講生の方々が、老若男女を問わずテニスを楽しんでおられます。

また、普及活動の一環として2002年からはジュニアテニス大会、2008年からはテニスクリニックを年2回開催しています。

今後も、地域の皆様一人一人に対して、柔軟な対応ができるスクールのあり方を探りながら、テニスを通じたコミュニケーション力を高めていきたいと考えています。



ソフトボール教室

連携先：兵庫県ソフトボール協会、熊野市ソフトボール協会、京都府中体連
本学：ソフトボール部

一緒にスポーツを楽しみましょう！

ソフトボール部は、大小さまざまなソフトボール教室を毎年5回程度行っています。一番大きな規模は約350人を超える中学生が参加する京都府中体連の講習会です。

部員同士で話し合いながら指導案を作成し実行します。いかに充実させ楽しく有意義な講習会に出来るかを試行錯誤しながら指導します。スポーツ（ソフトボール）の楽しさを伝えることはもとより、体を動かすことの大切さや達成した喜び、挨拶の大事さ等も地域のスポーツする小中高生に少しでも伝えられればと思います。部員にとって指導やコミュニケーションの難しさを経験することも、卒業後の社会で役立っています。スポーツを通じて地域のみなさんと交流することも楽しみです。



つかぐちグルメガイド

連携先：尼崎商工会議所

本 学：未来デザイン学部文化創造学科大江ゼミ

この事業は、尼崎商工会議所100周年記念事業の一環として実施されたものです。多くの学生が通学で利用している阪急塚口駅の北エリアの特徴は、飲食店が大きな道路に面していない、店舗が入り組んだところにあるため目立たないという課題を持っていました。学生たちが街を歩いてチェックし、「行ってみたい」と感じたお店を取材しました。ガイドブックを手にとった方々に飲食店の存在を知ってもらい、商店街が活性化することが私たちの願いです。

「ハッピー MAPPY」

このグルメガイドは「ハッピー MAPPY」と名付けました。塚口の街を訪れる方々が〈しあわせ〉な気分での地図を手にしてもらえるように考えました。表紙には、取材をした学生8人の似顔絵のイラストを描いています。



まちかどグルメに「Cheers (乾杯)」

取材はペアをつかって、毎週1軒のお店に取材にいきました。「女子会もできます」「マスターのこだわりは徹底しています」など学生目線のコメントを工夫しています。はじめての取材で緊張の連続でしたが、お店の方に親切に対応していただき、楽しく取材ができました。



地域とつながる

取材を通して、人とつながり、街とつながり、塚口のオモシロさを数多く発見することができました。このマップが地域の未来につながっていくことを期待しています。塚口商店街の歳末イベントもお手伝いし、商店街と学生の輪は確実に広がっています。



大学等協同研究支援事業（尼崎卸売市場）

連携先：尼崎市地方卸売市場運営協議会

本 学：人間健康学部 食物栄養学科 4年次生 川島ゼミ

卸売市場の品質管理に関する第三者点検の実施

卸売市場内業者の食の安全・安心に対する認識を更に高めるために、協同で場内の品質管理点検を行いました。まず、品質管理マニュアルに沿ったチェック項目を作成し、場内の卸業者、仲卸業者による自主点検後、ゼミ生による第三者点検を実施しました。



学生による調査報告と啓発ポスターの作成

第1回尼崎市公設地方卸売市場場内事業者研修会で適切な手洗い、商品の温度管理、安全衛生管理などの品質管理に関する調査結果を発表しました。また、場内業者の食の安全・安心に対する認識をさらに高めるために、啓発ポスターを作成し、提供しています。



尼イモで尼崎のスイーツはいかが

連携先：尼崎商工会議所

本 学：生活文化学科 国際食文化コース

尼イモってどんなイモ

江戸時代から栽培され、味は甘く、40日芋の変種で太さ直径3～5cm、長さ20cm位の細長ものが良品とされています。毎年地蔵盆のお供えには欠かせないイモとして親しまれていました。昭和9年の室戸台風後姿を消しましたが、その後平成17年から尼イモの復活に取り組んでいます。



尼イモで何ができるかな

女性の好物、さつまいものお菓子は数多くあります。尼崎らしい尼イモのスイーツは何でしょうか、今学生とを考えています。まだ完成はしていませんが、「焼き菓子やかりんとなどは？」いいえ私たちはイモの収穫を心待ちにするようなお菓子作りを考えています。

創作和菓子「橘の玉依姫」を考案！

連携先：尼崎市立花商店街 御菓子司 旭堂本店
本 学：生活文化学科 国際食文化コース・情報デザインコース

生活文化学科では、平成16年7月に商店街活性化を目的として、和菓子「橘の玉依姫（たちばなのたまよりひめ）」を御菓子司旭堂本店と共同開発しました。

和菓子そのものは国際食文化コースの学生が、パッケージデザインは情報デザインコースの学生が考案しました。尼崎特産の生揚げ醤油が塗られた皮に包まれたチーズと白あんのハーモニーは、老若男女を問わず大好評です。現在も「橘の玉依姫」は御菓子司旭堂本店（尼崎市立花町1の5の11）にて1個126円で販売中です。

ほのかな酸味と甘みの調和！

この事業は、商店街活性化を目的とした、本学と立花商店街振興組合、街づくりグループHappy Actionとの協働プロジェクトです。おやつ感覚で楽しめ、尼崎の物産を使用し、新しい味で名物になるものというコンセプトで和菓子を開発しました。皮には尼崎で生産されている尼の生揚げ醤油を塗り、中のあんはチーズと白あんをベースにしています。現在は、チーズにチョコ、ミカン、リンゴのいずれかが混ぜられた商品があり、1個126円で販売されています。「やみつきになる味」と好評です。



イメージをデザインに！情報デザインコース

「橘の玉依姫」という商品名は、立花がかつてみかんの生産地であったため「橘」、立花商店街に近い水堂須佐男神社の古墳で発見された鏡・短剣・珠より「玉」、この和菓子を開発するのが本学学生であるため「姫」、より名づけました。橘の玉依姫のデザインについては、何度もゼミ内で話し合いを重ね、「橘」からみかん色、「玉」から泡、「姫」からお姫様をイメージしてデザインすることにしました。コンピュータを駆使し、学生の感性で柔らかく優しい和風のテストで、和菓子の包み紙と由来書を作成しました。

南塚口センターセブン・チラシ制作

連携先：南塚口センターセブン・尼崎市産業振興課
本 学：未来デザイン学部文化創造学科大江ゼミ



“いつも いいもの いつまでも”

この事業は、大学と尼崎市域の商店街が共同で活性化を研究する尼崎市産業振興課の取り組みです。センターセブンは、元は市場でしたが、ショッピングセンターになったものの地域の高齢化で活性化が課題でした。本学では、センターセブンで毎年発行されるチラシを学生の視点で制作しました。

伊達公子先生とセンターセブン

大学のすぐそばにありながら、学生たちがその存在すら知らなかったスーパーがセンターセブンでした。いまでは大学の周りにコンビニができ、寮生も立ち寄ることが少なくなりましたが、先輩たちはよく利用していたようです。記事を作成するにあたってテニス部監督の細木さんに伊達公子先生とのお話を教えていただきました。センターセブンの取材を通じて、大学の歴史を感じることができました。

丹波商工会と「料理とスイーツ」で連携

連携先：丹波商工会議所
本 学：生活文化学科 国際食文化コース

鹿肉のこと教えて

『鹿肉料理を考案してほしい』との依頼により、3年前から学生と開発に取り組んできました。鹿肉は少し野生の香りがしますが、注目点はコレステロールが低く、脂肪の取りすぎを気にする高齢者や若い女性には大変好ましい肉です。人気ベスト1は「かのしし丼」です。



丹波産の素材を使ったスイーツ

丹波で有名な特産品に栗、黒豆、山芋等があります。栗をいっぱい入れた、パウンドケーキや黒豆のスパンニッシュ風ケーキ、等いろいろ試作を作りました。中でも一番の出来は、黒豆の黄粉を使ったクッキーです。黄粉の香りがよく、特に高齢者に食べていただきたい出来です。



地域に支えられる本学の国際交流

連携先：海外学術提携校7校
本学：教育研究企画部国際交流室

本学は、昭和60年代よりオセアニア地域の大学と学術協定を提携し、国際交流の礎を築いてきました。近年では、中国、韓国、台湾、インドネシアの大学とも提携を結び学生交換を行う等、アジア地域との交流にも力を注いでいます。本学では毎年年間約30名の交換留学生を受入れ、学内で特別研修プログラムを実施する他、地域へも国際交流の場を広げています。園田の国際交流が、教育・研究はもとより、地域社会の発展に資することを願っています。

地域における国際交流活動

本学が海外学術提携校から受け入れる交換留学生たちのほとんどが、日本滞在中、ホームステイを体験します。特にオセアニアからの短期交換留学生は、尼崎市を中心とした阪神地域、そして但馬地域（新温泉町、香美町、豊岡市）の二つの異なる歴史や文化を持つ地域でホームステイします。ホストファミリーの皆さまには学内の学習では得ることが出来ない、日本の家族との貴重な生活体験の機会を提供していただいています。



市内小学校における国際理解教育

本学には毎年12月に、オセアニア地域の学術提携校から10数名の短期交換留学生が研修プログラムに参加するため来日します。留学生たちは、約4週間の滞在期間中、日本語・日本文化の研修授業に参加する他、地域の小学校を訪問して子どもたちと交流し、日本の小学校教育の実態を学びます。子どもたちが興味を持ちやすいように、外国の子どもの遊び・歌や踊りを体験してもらうことにより、国際理解を深めます。



尼崎市国際交流協会との協力事業

連携先：尼崎市国際交流協会
本学：教育研究企画部国際交流室

尼崎市国際交流協会では、市内在住の外国人や団体との交流を通して国際間の相互理解を促進することを目的に、一般市民である協会の皆さんが中心となって、多種多様な国際交流事業を立案、実施されています。本学は、その活動に積極的に協力参加することで、受入留学生や国際交流に関心を持つ本学学生たちの地域における様々な交流の機会を得ることになっています。今後も共に活動を進めていくことで、互いの国際交流事業がさらに発展することと信じています。

スピーチコンテスト

多様な事業を行う協会の活動に対し、本学は積極的に参加協力を行っています。

平成17年度に協会主催第1回「日本語スピーチコンテスト」が本学会場で行われて以来、本学の留学生は毎回出場し、日本語学習の成果を発表する場として位置付けられています。来場の皆さんにとっても、異文化を知ることはもちろん、在住外国人が日本で暮らす中での考え、思い、日々の生活の様子を知る機会になっています。



国際イベントへの協力

スピーチコンテストが市内4大学持ち回りで会場提供、実施される他、その他国際交流イベントの日帰りバス旅行等、市民と外国人との交流を図る事業が多種多様に計画されています。本学の留学生を積極的に参加させ、学外における素晴らしい学習の機会として位置付ける一方、地域の皆さんにとっても本学留学生を通じての異文化体験の機会、さらに本学の国際交流を学外に紹介する機会にもなっているものと確信します。



平成23年度は、「ハワイアン・ナイト（8月）」のチラシ作りから当日スタッフまでの業務に本学学生が係ったり、「バスツアー（12月）」にオセアニア地域からの短期交換留学生が参加、協会の皆さんと見学、昼食等行動を一日ご一緒させていただくなどの交流がありました。

地域連携に参加した学生の声

■2年間、地域で学んだこと 新開菜々美（未来デザイン学部文化創造学科4年）



3年の秋に岩手県遠野に研修旅行に行きました。柳田國男について勉強をし、遠野に昔から伝わる話を聞き、昔話によるまちづくりを学びました。そして、尼崎商工会議所の方に協力していただき「ハッピーMAPPY」という塚口のグルメガイドを制作しました。* 阪急塚口北エリアの飲食店をゼミの仲間と取材しました。この経験を活かして、杭瀬のガイドブックを卒業研究と並行して制作させてもらいました。* 私は商店街にある子育てサークルについて調べました。街のことを全く知らなかったもので、神社の夏祭りに参加したり、杭瀬小学校の児童と一緒に街歩きをし、杭瀬がどんな街かを杭瀬の多くの方から教えていただきました。地域の良さを短い文章でどうやって伝えるのか苦労しましたが、本当にいい経験をさせてもらいました。私たちのガイドブックが街の元気に役立つことを願っています。 *注) P.6およびP.23参照



■「大学×地域」のつながり 三宮章香（人間健康学部食物栄養学科3年）



地域と大学の新しい形「つながる」ことを目的とした活動を2年次より行ってきました。* 地域連携に大学がどのように関わっているのか、地域・大学が求めるものとは何なのか等を考えながら、大学生の目線でニーズを吸い上げ、シンポジウムを開催したり、実際にフィールドに出て活動をしてきました。地域や大学の現状は、実際に自分の目で見て耳で聴いてみないと分からないし、知ることができないと思います。私は地域と大学がつながり、お互いに活性化することを願って、イベントの企画・運営を行ってきましたが、その場で新たなつながりが生まれた瞬間や連携活動が始まる瞬間に立ち会えた時は、このような事業に関わってきて良かったと強く感じます。また、大学生である私たちも積極的に地域と関わることを大切にしなければならぬのではないかと考えます。私は今後も「地域×大学」のつながりが継続し、さらに発展していくように、活動を行っていききたいと思います。

*注) P.8「兵庫県民局との地域連携事業」参照



(追録) 震災における本学の支援

東日本大震災関連

●学生のボランティア参加 6名（2011年12月1日現在）
●本学は文部科学省「東日本大震災 子どもの学び支援ポータルサイト」を通じ、次の物資支援を行ないました。

1. 鳴瀬町立鳴瀬第二中学校（宮城県東松島市） バasketボール 10個
2. NPO法人奄美大島自然体験学校（鹿児島県大島郡）
キャンプ用ロールマット 24枚（被災児童の受け入れキャンプ）
3. 山元町立坂元中学校（宮城県亶理郡） マーキーテント 1張り
4. 七ヶ浜町立松ヶ浜小学校（宮城県宮城郡） マーキーテント 1張り

●園田学園女子大学学生会は入学式等で災害義援金募集活動を行い、皆様から寄せられた255,867円を日本赤十字社に送金しました。引き続き、募金は受け付けています。

●被災学生の受け入れについて

本学では、被災地の学生の就学を支援するため、つぎのような受け入れを行っています。

- (1) 図書館、情報教育センターの開放
- (2) 通学できる範囲に住居がある学生を特別聴講生として受け入れる。

- ・学費の減免
- ・単位の認定
- ・被災地の大学・短期大学に入学予定もしくは在籍している女子学生

- (3) 阪神間に避難先がない学生を特別聴講生として受け入れる。

- ・受け入れ施設 学生寮（ドミトリー（けやき）…ワンルーム形式）
- ・学費の減免
- ・寮費免除のほか生活の支援
- ・単位の認定
- ・被災地大学・短期大学に入学予定もしくは在籍している女子学生

クライストチャーチ大地震関連

●学校法人園田学園及び日本オセアニア交流協会では、2011年2月22日にニュージーランド南島のクライストチャーチ付近で発生した大地震で被災したカンタベリー大学及びヴィラマリアカレッジ校を支援するため、3月4日から3月31日までの期間、義援金を募集しました。おかげさまをもちまして、募金総額は1,254,086円に達し、カンタベリー大学及びヴィラマリアカレッジ校に全学を送金しました。